



友愛みどり園
ケアホームもやい
移動支援事業所「ふくろう」
相談支援事業所 つむぎ
あごら ビータス
きざし

2024.2.15 vol.79

〒276-0040 八千代市緑が丘西 5-20-2
TEL 047-458-7477 FAX 047-459-9541
https://yokuyu.or.jp
E-mail: midorien@ca.wakwak.com

みどり

Contents

グリーンフェス	1 P
ふくろう	2 P
宣候展	2 P
お知らせ掲示板	2 P

特集	
「助けたり、助けられたり」 ..	3 P
とっておきの作品展	3 P
よくゆうぶちねっと	4 P
最近気になるお野菜レシピ ..	4 P

友愛みどり園

グリーンフェスを

開催しました!

2023年11月18日(土)、友愛みどり園主催の元、第22回グリーンフェスを開催しました。コロナ禍では地域の方々との交流もできず、園の中だけでの開催となっていました。今回は緑が丘西自治会の方々にもご協力頂き、「共生社会」をテーマに、障がいのある方もない方も、自分らしく安心して暮らすことが出来る地域づくりの実現のための1ページとして盛大に開催させていただきました。

緑が丘西地区の方々は、緑が丘西自治会主催の交流祭



へハンドメイドマーケットとして出店したことや、緑が丘小学校への清掃ボランティア等をおして交流する機会を頂きました。このことから

か、日々のウオーキングの中でも挨拶を返していただき、ふとした様々な場面でも友愛みどり園を受け入れてくださっていることを実感することができ、感謝の思いでいっぱいです。

グリーンフェスでは、各活動班で製品販売、活動体験を行い、織物班ではさをり織り体験をしました。4、5才の小さなお子さんから、小学生、大学生、障がいがある方もいらっしやいました。皆さん、初めてさをり織りに触れる方々ばかりでしたので、織物班の織りのエキスパートの方に先生として、皆さんの前でお手本をお願いしたところ、日頃は淡々と職人のように織っている織物班の方々も緊張するようで、少し戸惑いながら織りのお手

本を務めてくれました。その様子をお客さんも真剣に見つめ、実際に織り始めると、最初は少し悩みながらも、慣れると皆さん、どんどん織り進めていかれ、最後には「楽しかった〜!」ととてもステキな笑顔で帰られました。

中央ステージでは3つのショーをお招きしました。ショーの間は利用者の方もステージ前で踊り、歌い、ショーを楽しみました。

他県では雪が降るほどの寒さと、あいにくの曇天で残念ながら来場者数は伸びませんでした。が、「共生社会」にふさわしいイベントになったと思います。今後も続けていき、更に地域の方々との交流を深められたらと思います。



移動支援事業所

ふくろう

当事業所が広報誌へ掲載する頻度は、年に1度ほどなので、いつも誰のどんな楽しい・嬉しいエピソードを紹介しようかとても悩みます。それくらい利用者のみなさんが外出先でたくさん素敵な表情を見せてくれます。

今回は中学3年生のAさんのお話をしようと思います。当事業所を利用してから、1年も経過していないAさんは、初めて余暇サービスを行った際は、ウォーキングに買い物、帰りは大好きなモノレールに乗る内容でした。サービスを始めた頃は「何をするのか・何で出かけるのか」と言わんばかりに不安そうにしており、一日通して緊張した様子が続いていました。入店



幅に数が減少!

その後しばらく買い物をするお店を固定することにしました。時折、見境なく商品を手にとりカゴに入れる姿は見られるもの、ハッとした様子

すると険しい表情になり、お菓子コーナーへ一直線! カゴの中に商品を次から次へと入れていました。選んでいる感じは無く、衝動的にカゴの中をいっぱいにしたという思いが感じられました。ヘルパーからの商品を減らす提案には聞く耳を持たず(持てず?)…。退店すると、穏やかな表情に戻りました。また購入したお菓子をすべて食べたといった様子はなく、その場では1袋のお菓子を食へるにとどまりました。

一方モノレールでは、外の景色を眺め、揺れる感覚に満足した様子がうかがえました。その日以降も買い物時の衝動的な姿は続きました。ある日の事です。ヘルパーからの提案で、小さめのカゴがあるお店にいくと、2つのお菓子をカゴに入れ自らレジへ。いつもとは大



で「これじゃないかな…」と棚に戻し、じっくりと選ぶ様子が見られるようになってきました。

今では、普通のサイズのカゴを使用し買い物をする日も少しずつ取り入れていきますが、初期の姿は見られず、買い物が一番の楽しみに変化しているAさんです。

現在のAさんの姿が見られるようになったのは、時間をかけて慣れてきた事もありますが、余暇サービスで「何をするのか・楽しさを感じる」見通しが持てるようになったのだと感じます。

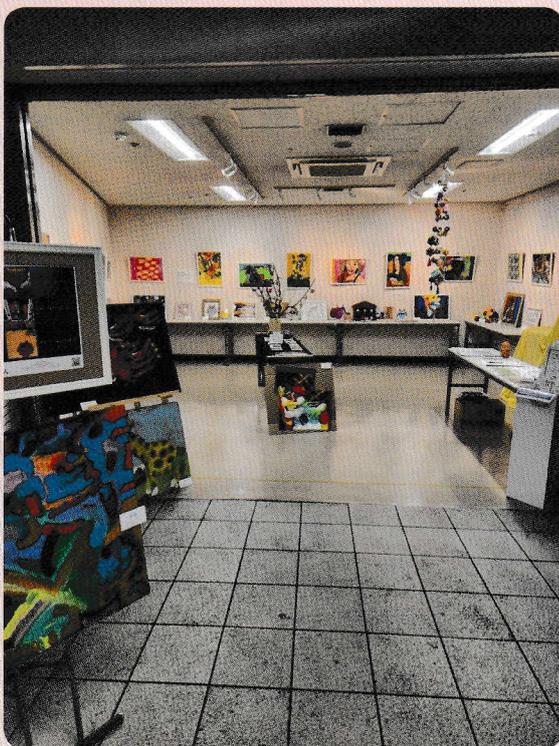
サービス内容は大きく変化していないものの、Aさんがこれから、様々な経験をしていきたいから楽しさを感じてくれるのをこれからも一緒に共有していきたいと思えます。

Ⓔ

宜候展

12月13日(水)〜15日(金)の3日間で勝田台ステーションギャラリーにて開催しました。今回はゴッホやミレー等の有名絵画の模写を中心に30点以上の作品を展示致しました。合計で172名の方が来場され、「素敵ですね」「売らないんですか?」等、嬉しいご意見を頂いた3日間でした。また、来年度も開催したいと思えます。

Ⓔ



お知らせ掲示板

シンビオスアート展

日時：2月18日(日) 11時~15時
場所：ユアエルム八千代台店 3F
エルムスペースにて開催

是非お越し下さい!

特集

「助けたり、助けられたり」

前回は「学校の場面」ということで、市内の学校関係者の方にお話を伺い、エピソードを交えてご紹介させて頂きました。今回は「身近な場面」でということ、インタビューさせて頂きました。その中で聞くことが出来た「助けたり、助けられたり」のエピソードをお二人からお伺いしましたのでご紹介させて頂きます。

☆エピソード1 八千代市在住の男性 A さんからのお話

A さんのお隣にお住まいのご主人さんは文字を読むのが苦手とのこと。お隣さんが新しい電化製品を購入した時には、説明書が苦手ということで電化製品の設置等を依頼されるそうです。A さんも毎回「いいよ～」と作業を引き受けているということです。

また、お隣のお子さんたちが学生だった頃には、「難しいことは A さんに聞いておいで」とご主人さんが言うそうで、お隣のお子さんたちも A さんを頼ってくるのが時々あったそうです。

そんなお隣のご主人さんは、以前板前さんをされていたそうで、お礼に美味しいお料理を持って来てくれるということでした。今でも時々夕飯のおかずの差し入れがあり、A さんとお隣さんは何年も持ちつ持たれつの関係との事でした。

☆エピソード2 ダウン症の息子さんがいる B さんからのお話

B さんが小児科に息子さんと行った時の事です。待合室で順番待ちを息子さんとしていました。息子さんは発語がなく、いつものように色々な声を出していました。すると、近くに居た小学校低学年位の女の子が「ママ～どうしてあの子はずっと唸っているの？」とママに聞きました。B さんは少し焦りました。「シーっ！」や「そんなこと言わないの！」と慌てて娘さんの話を遮る反応をまた見てしまうのか…と。少しドキドキしていると、予測していた反応とは違っていたのです。「あのね、いろんな子が居るんだよ」と娘さんに答えてくれたのを見聞きして、B さんは感激し涙が…。とても嬉しかったと思い出し、お話して下さいました。

エピソード1のAさんのお話はお互いの得意な事を生かし、苦手な部分を補い合う、ご近所同士助け合っている様子が素敵だなと感じられるお話を聞かせて頂きました。

エピソード2のBさんはまさに「共生」のエピソードだったと思います。「いろんな人がいる」それは金子みすゞの「わたしの小鳥とすずと」の有名な一節「みんなちがってみんないい」を伝えてくれた、娘さんに対するママさんの言葉だったと感じられました。

「人と違う・普通と違う」と言いますが、人は一人として同じ人はいません。自分を基準に自分と違う事で不安や時に嫌悪感を抱きます。「みんなちがってみんないい」を改めて心にしっかりと留めたいと思います。Ⓚ



今回の那須さんの作品は「蝶」です。カラフルな色使いで素敵な蝶が描かれています。この作品は2月18日(日)に行われるシンビオシスアート展でも展示予定です。是非、ご覧下さい。Ⓚ

ちがってみんなの
作品展

昨年の12月6日～10日にオーエンス市民ギャラリーにて「とっておきの作品展」が開催されました。今回の作品展で「オーエンス市民ギャラリー館長賞」を友愛みどり園の利用者、那須雄介さんが受賞されました。館長賞や市長賞等、友愛みどり園利用者さんの受賞は3年連続となりました！毎年嬉しい受賞のニュースがあり、次の作品作りに向けて励みになっております。

よくゆう★ぷちねっと 「防災について考えよう①」－福祉避難所について－

もしも大地震が起きたら…。もしも巨大台風が上陸したら…。ここ数年「〇〇年に一度」と言われるような災害が頻回に起こっていますね。私たちも日頃から災害が起こった時のために準備をしておくことが大切です。そこで今回は、「防災について考えよう①」として、事前に知っておくことで、もしもの時に落ち着いて行動できるように、福祉避難所について特集します。

★福祉避難所とは？

福祉避難所とは、高齢者や障害者、子どもなどの特に配慮が必要な人が災害時に滞在できる避難所のことです。

★どこにあるの？

八千代市内では高齢者施設や障害者施設など現在25ヵ所が福祉避難所として指定されており、当法人の「友愛みどり園」もその一つで、障害者の受け入れを想定しています。

★いつ使えるの？

一般の避難所に避難してきた人等で指定福祉避難所の利用を必要とする人がおり、市町村が指定福祉避難所の開設が必要と判断する場合に、指定福祉避難所を開設します。

ただし、福祉避難所の開設は、受け入れ施設の安全性が確認された上で、避難者を受け入れるだけの体制が整えられなければ開設されません。

しかし、スムーズな避難を促すため、個別避難計画の作成等を通じて、あらかじめ受け入れ対象者を調整し、普段から利用している施設に直接避難できるよう制度の見直しが行われており、今後ルールが変わっていくものと思われます。

★課題は？

2016年の熊本地震において、地震発生から10日間での主な被災地での福祉避難所開設状況は熊本市37/176、益城市0/5、阿蘇市0/17、西原市1/1、と、必要とする人が、すぐには利用できない状況でした。こうした状況になった原因は、施設そのものの被災やマンパワー不足が考えられます。また、開設されたとしても、自治体からの情報提供の不十分さから、利用が低調だったと考えられています。

こうした実例を踏まえると、大変な時こそ助け合うことができる地域社会が必要だと改めて思います。非常時には、千葉県災害福祉支援チーム(DWAT)等の専門人材の派遣もあるかと思いますが、避難者も自分ができることを手伝えるなど、福祉避難所に関わる人が手を取り合い、一緒に危機を乗り越えていけるといいですね。

★今後に向けて

私たちも福祉避難所の指定を受ける施設として、非常時の電源の確保など、できる備えを少しずつ進めています。ただし、実際に災害が来た時に何ができるのかは未知数な部分も多いのが実情です。市内の福祉避難所は、現在輪番で福祉避難所の開設訓練を実施しているので、今後の訓練で得られた知見を活かし、避難者が安心して過ごせる福祉避難所運営ができればと思います。

★おわりに

今回は「防災について考えよう②」として、避難行動要支援者名簿と個別避難計画について知ることのできる記事にできればと思います。避難の前に、自分達が事前にできる準備が、まだあるので、一緒に学びましょう。 (村)

上記の記事完成後に1月1日の「令和6年能登半島地震」が発生してしまい、報道などでもあるように現地では福祉避難所の設置どころではないのが現状です。それらの現状を踏まえ私たちも考えていかなければならないと感じています。次回記事は能登の実情も加えながらお伝えしたいと思います。 (木)

★パート9 最近気になる お野菜レシピ ほうれん草



《ほうれん草と豚肉の白和え》2人分

材 料
 ほうれん草 100g
 豚肉 (しゃぶしゃぶ用) 80g
 ☆絹ごし豆腐 1/2 丁
 白すりごま 大さじ2
 しょうゆ 大さじ1
 砂糖 大さじ1

つくり方

- 1, 豆腐はキッチンペーパーで包み、重しをして15分ほど、水きりをする。
- 2, 鍋に湯を沸かし、ほうれん草をゆでてから豚肉もゆでる。
- 3, 1を冷水にさらし、水気を絞る。ほうれん草は3cm幅に切る。
- 4, ボウルに☆を入れて混ぜ合わせ、3を入れて和える。
- 5, 器に盛り付け、出来上がり。